

週刊センターニュース No.157

Center
Research
Higher
Education
Evaluation
Student
Support
System

第 157 号 (2007 年 5 月 7 日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

第 148 回共同学習会のご案内

日時: 2007 年 5 月 10 日 (木) 16 時 30 分 ~ 18 時

場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟 2 階会議室

報告者: 西山宣昭 (大学教育開発・支援センター)

テーマ 「インターンシップ推進フォーラム 2007 参加報告」

趣旨: 文部科学省主催で開催された標記フォーラムの内容について報告する。本学工学部、名古屋工業大学の取組の報告に加え、横浜国立大学、立教大学と提携してインターンシップ受け入れを行っている企業担当者からの報告もあった。本学では来年度の 3 学域化に合わせて実施されるキャリア形成教育プログラムについて教育企画会議の下でのキャリア教育部会で検討が進んでおり、本報告が参考になることを期待したい。

授業前知識確認シート - 授業法改善のヒント -

この数年、授業前知識確認シート (以下「シート」) なるものを活用している。各授業の最初に、例えば、薬学部専門科目「生命倫理学」の授業であれば、シラバスで示した主要テーマごとに、「生命の定義を試みてください」「緊急避妊薬について知っていることを記してください」等々の質問を試みるものである。受講生には記名なしで、およそ 10 分間で書いてもらっている。

教育の成果・効果をどう判定すべきか。個々の科目においてそれぞれの授業目標に従って試みられていることと思う。多くは、学生が提出する (最終回の) 答案試験やレポートによって、一定のレベルに到達していることが主たる判断材料となっているであろう。単位認定基準をシラバスに明示することもすでに行われている。ただし、それはあくまでも授業終了時点での学生の知識・認識を問うているのであって、その授業そのものにおける学習成果であるとは限らないということを忘れてはならない。

教育方法・教育内容の改善のためには、15 回の授業内容や時間外の予習・復習の指示が的確であったか、その授業を通じて学生が実際に何を学んだかということ振り返る必要がある。少なくとも授業開始時点での知識の量を確認することが求められると思う。私の場合、受講前知識確認 + 毎回の授業のミニツッパーパーによる要点学習確認 + 期末試験が、セットとなつての授業の自己評価作業となる。教えのプロセスの評価である。

シートのメリットは、2 回目以降の授業における授業計画の修正に役立つことにもある。当たり前のことだが、同じ学部の同じ学年であっても、毎年、学生の知識量は違う。高校までの学習内容の違いに加えて、受講した共通教育科目の多様性まで考慮すれば、違う学生たちに対して授業をする以上、同じ科目であっても、毎年、シラバスで示した各回のテーマそれ自体は別として、それぞれの 90 分

の中身は変更しなければならない。

シートで、このテーマについては間違っただけが多い、誤解している・・・等の情報が得られれば、当該テーマの授業の回の冒頭で「 」といった回答が多かったが、これは正確には です」といった話から始める、あるいは、より正確な知識に基づいて受講してもらうために、前の回に配布する予習用資料に詳しいデータを入れるといった工夫につながっていく。受講生にとっては、名前を挙げられなくても具体的に自分の誤解が正されることは、自分がこの授業の参加者であることの自覚にもつながる。

一回目の授業で少しの手間をかけることで、その後の授業計画が随分、立てやすくなる。面倒だという声もあるが、薬学部の専門科目で約 100 名分、共通教育科目で約 200 名分をチェックするのはそれぞれ 1 時間もあれば片づく作業である。私が授業でもっとも恐いのは、話しても学生がキョトンとする瞬間である。しまった、これは難しすぎたか！と反省して、具体例をあげたり、より分かりやすい言葉に言い換えて授業を続ける・・・。試験答案の採点時に、授業内容がうまく伝わっていなかったことに気付くと取り返しがつかないが、それを避けるためには、シートとミニッツペーパーは有効であるといえる。

かつて、なんでも相談で＜高校の授業でも習ったことだ＞から共通教育科目に面白さを感じないという学生の相談を受けたことがあった。具体的な科目名も出てきたが、私は＜その科目については分からないが、一般論として、重要なことは何度でも繰り返し学ぶ必要はあるし、学問にはどうしても積み重ねという性格があって、以前の知識を再確認して進むという作業も意味がある＞などと答えたが、学生は不満顔のままであった。

学生の多様化という現実がある。さらに、高校までのカリキュラムの変化という事情がある。入学者選抜の多様化は、入学前知識の多様化を認めた上でのことである。早期合格者への入学前教育に関して「高校（の進路担当教頭）の 96.1%、大学（の入試広報担当者）の 90.5%が『必要』と回答」というアンケート結果が報告されており（『大学新聞』第 44 号、2007 年 4 月 25 日）、大学として取り組まねばならない時期に来ている。併せて、今の時点で各教員の工夫でそれぞれの科目ごとに、受講生の知識を早い段階で確認し、その授業ごとに理解しやすい内容・方法を開発していくことが求められよう。授業内容の理解が進めば、学生の学習意欲の向上という効果にもつながる。

なお、シートには、生命倫理学であれば「なぜ専門科目で生命倫理学を学ぶ必要があるのか」、共通教育の「医事法入門」であれば「なぜ（法学部の学生でもないのに）医事法について、教養として学ばねばならないのか」を答えてもらっている。国家試験につながる科目でもなければ単位のためだけに受講するのは学生にとってつらいのは明らかであり、その科目を学ぶ理由が少しでも納得できれば 1 時間限りの授業でも遅刻しないで出席しようかと思うようになる。

すでに類似の試みをされておられる方も多いかと想像するが、関心をもたれた各教員に対し、種々の副効用も期待できる授業前知識確認シートの活用を、来学期以降、試みられるよう提案する。

（文責：教育支援システム研究部門 青野 透）

角間ランチョンセミナーのご案内

5 月は、「国際交流月間」として、様々な話題のもと留学生や日本語・日本文化研修生のご報告や、留学生センター等の教職員によるミニ留学説明会など、ためになる情報をお届けいたします。国際交流・異文化理解に関心をお持ちの方、是非ご参加下さい。詳しいスケジュールは、http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/luncheonhp/schedule.htm をご覧下さい。